

青木繁「海の幸」記念館の庭で語り合う(右から)大村智さん、青木の孫の松永洋子さん、小谷福哲さん、館山市市長



「海の幸」描いた館山の住宅 修復

青木繁記念館 あすから公開

洋画家の青木繁(1882~1911)が代表作「海の幸」を描いた館山市布良の小谷家住宅が青木繁「海の幸」記念館に生まれ変わり、開館式が24日あつた。明治期の建築当時の豊かな漁民の家に修復された。29日から一般公開される。

NPO法人「青木繁『海の幸』会」理事長でノーベル医学生理学賞に輝いた大村智さん(北里大特別荣誉教授)ら開館を目指し活動

してきた関係4者の代表がテープカット。大村さんは「待ちに待ったオープン喜びを大勢の皆さんと分かち合いたい」と祝った。

1904(明治37)年の夏、青木ら青年画家4人はここに逗留した。その部屋に「海の幸」と「わだつみのいるこの宮」の重要文化財2作品の原寸大レプリカを配している。資料約40点を展示。青木の絵手紙からは、制作の動機や息づかいが伝わってくる。

修復には「海の幸」会の寄付や館山市のふるさと納税などが充てられ、総事業費は約2800万円。館長は小谷家当主の福哲さん(65)。問い合わせは安房文化遺産フォーラム(0470・22・8271)へ。